

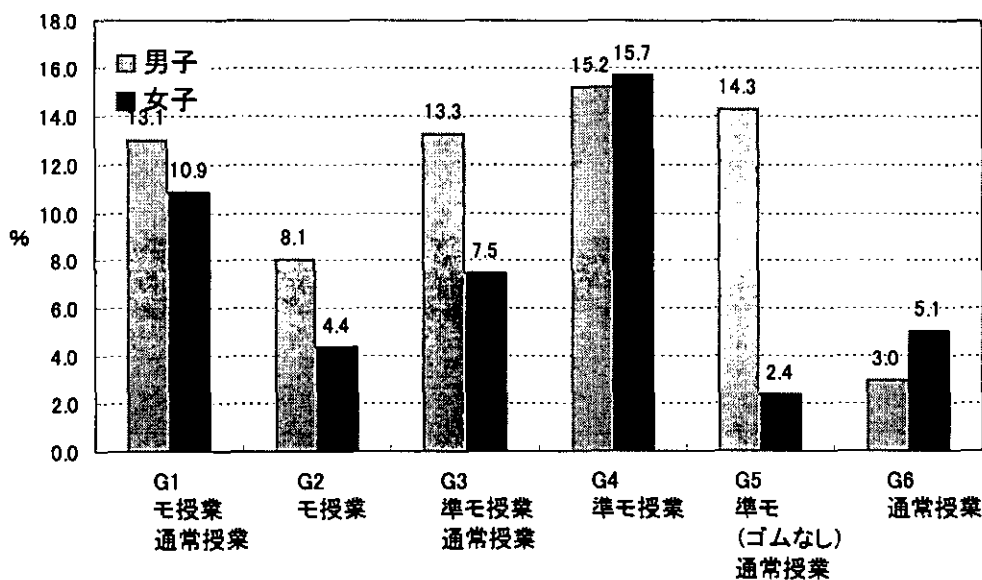
(1) 知識 (knowledge) : コンドーム② (中学3年生)

中学3年生に「コンドームが何か知っているか」尋ねた。表16に介入前後のコンドーム認知率(%)を性別介入群別に示し、図4には認知率の介入前後の差を示した。G1~G5の学校群では、多少ばらつきはあるものの、4~15%程度の認知率の上昇が観察されたが、G5群の女子の上昇率はG6と同程度で低かった(G1, G3, G4では $p < 0.01$ 、G5男 $p = 0.01$ 、それ以外は有意水準に達せず)。G6の通常授業のみの学校群では、認知率の上昇は3~5%程度にとどまった( $p > 0.1$ )。

表16. コンドームの意味を知っている割合の変化 (中学3年生)

		男子			女子		
		事前	事後	差	事前	事後	差
G1	n	144	134		155	152	
	%	75.0	88.1	13.1	86.5	97.4	10.9
G2	n	125	126		113	112	
	%	82.4	90.5	8.1	92.9	97.3	4.4
G3	n	196	174		203	184	
	%	73.5	86.8	13.3	88.2	95.7	7.5
G4	n	98	97		83	84	
	%	73.5	88.7	15.2	80.7	96.4	15.7
G5	n	105	105		99	91	
	%	71.4	85.7	14.3	89.9	92.3	2.4
G6	n	158	148		150	146	
	%	84.2	87.2	3.0	86.0	91.1	5.1

図4. コンドームを知っている割合の変化(中学3年生)



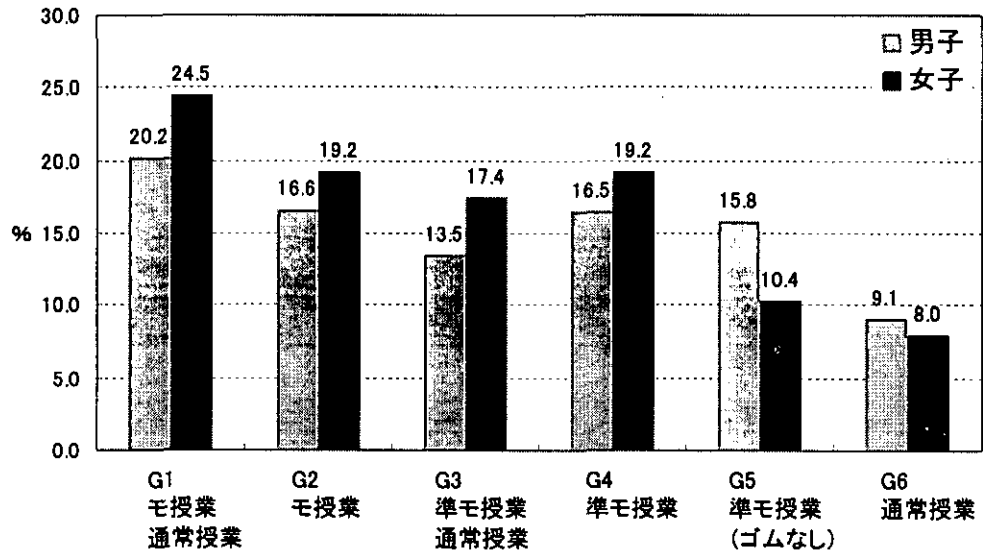
(2) コンドームに対する肯定的意識/態度 (attitude) (中学2年生)

介入の前後でコンドームに対する肯定的意識/態度を尋ねた。「コンドームを使う男性は相手を大切にしていると思う」「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」「大切な人とはコンドームを使いたいと思う」という質問に対し、同意した人の割合(%)を性別介入群別に表17に示し、介入前後での差を図5に示す。G1~G4のモデル授業群でコンドーム肯定意識/態度が15~25%程度上昇したが(全て $p<0.01, 0.001$ )、G5の準モデル授業(コンドームなし)学校群では10~15%の上昇であった(一部有意水準に達せず)。さらに、通常授業のみの学校群では肯定率の上昇は10%未満にとどまった(「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」以外は、有意水準に達せず)。

表17. コンドームに対する肯定率の変化(中学2年生)

	男子			女子			差
	事前	事後	差	事前	事後	差	
G1	n	176	174	173	158		
	ゴム使用は遊び人×	33.0	54.6	21.6	36.4	56.3	19.9
	ゴム使用男:相手大切	31.3	52.9	21.6	42.2	73.4	31.2
	ゴム使用女:健康管理	29.0	46.6	17.6	36.4	57.6	21.2
	大切相手ゴム使用	29.0	48.9	19.9	37.0	62.7	25.7
	平均	30.6	50.8	20.2	38.0	62.5	24.5
G2	n	287	275	268	266		
	ゴム使用は遊び人	35.9	48.7	12.8	41	53.8	12.8
	ゴム使用男:相手大切	34.8	52.7	17.9	39.9	60.9	21
	ゴム使用女:健康管理	30	49.5	19.5	33.6	53.8	20.2
	大切相手ゴム使用	29.3	45.5	16.2	31.7	54.5	22.8
	平均	32.5	49.1	16.6	36.6	55.8	19.2
G3	n	137	156	167	156		
	ゴム使用は遊び人	35.3	49.6	14.3	40.1	58.3	18.2
	ゴム使用男:相手大切	37.2	49.6	12.4	46.1	61.5	15.4
	ゴム使用女:健康管理	28.8	43.8	15	39.5	53.8	14.3
	大切相手ゴム使用	26.3	38.7	12.4	36.5	58.3	21.8
	平均	31.9	45.4	13.5	40.6	58.0	17.4
G4	n	192	187	189	188		
	ゴム使用は遊び人	27.6	47.1	19.5	35.4	48.4	13
	ゴム使用男:相手大切	37	54	17	35.4	62.2	26.8
	ゴム使用女:健康管理	29.7	49.2	19.5	31.7	50	18.3
	大切相手ゴム使用	32.3	42.2	9.9	28.6	47.3	18.7
	平均	31.7	48.1	16.5	32.8	52.0	19.2
G5	n	144	133	140	139		
	ゴム使用は遊び人	22.9	41.4	18.5	39.3	56.1	16.8
	ゴム使用男:相手大切	22.9	38.3	15.4	49.3	56.8	7.5
	ゴム使用女:健康管理	21.5	30.1	8.6	37.1	47.5	10.4
	大切相手ゴム使用	16.0	36.8	20.8	42.1	48.9	6.8
	平均	20.8	36.7	15.8	42.0	52.3	10.4
G6	n	199	199	199	188		
	ゴム使用は遊び人	25.6	36.7	11.1	30.2	42.6	12.4
	ゴム使用男:相手大切	28.1	37.7	9.6	40.7	48.4	7.7
	ゴム使用女:健康管理	26.6	33.7	7.1	38.2	45.2	7
	大切相手ゴム使用	21.6	30.2	8.6	32.2	37.2	5
	平均	25.5	34.6	9.1	35.3	43.4	8.0

図5. コンドーム肯定率の変化(中学2年生)



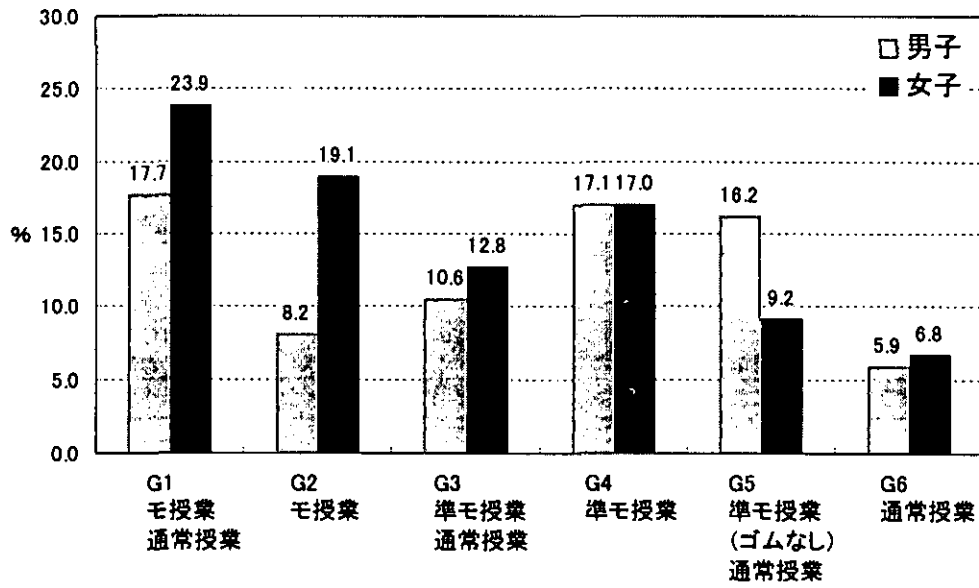
(2) コンドームに対する肯定的意識/態度 (attitude) (中学3年生)

介入の前後でコンドームに対する肯定的意識/態度を尋ねた。「コンドームを使う男性は相手を大切にしていると思う」「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」「大切な人とはコンドームを使いたいと思う」という質問に対し、同意した人の割合(%)を性別介入群別に表18に示し、介入前後での差を図6に示す。G1~G4のモデル授業群でコンドーム肯定意識/態度が8~25%程度上昇したが(男はG1で $p<0.001$ , 他は有意水準に達するものと達しないものが半々、女では、ほとんどが $p<0.05, 0.01$ )、G5の準モデル授業(コンドームなし)学校群では10~15%の上昇であった(男では3つ、女では1つが有意水準以上)。さらに、通常授業のみの学校群では肯定率の上昇は数%にとどまった(どれも有意水準に達せず)。

表18. コンドーム肯定率の変化 (中学3年生)

	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
G1		144	134		155	152
ゴム使用は遊び人×	42.4	58.2	15.8	44.5	61.2	16.7
ゴム使用男: 相手大切	34.7	58.2	23.5	47.1	78.9	31.8
ゴム使用女: 健康管理	36.8	58.2	21.4	43.9	70.4	26.5
大切相手ゴム使用	36.1	46.3	10.2	42.6	63.2	20.6
平均	37.5	55.2	17.7	44.5	68.4	23.9
G2		125	126		113	112
ゴム使用は遊び人×	52.0	58.7	6.7	50.4	74.1	23.7
ゴム使用男: 相手大切	45.6	50.8	5.2	62.8	81.3	18.5
ゴム使用女: 健康管理	35.2	48.4	13.2	51.3	69.6	18.3
大切相手ゴム使用	44.0	51.6	7.6	58.4	74.1	15.7
平均	44.2	52.4	8.2	55.7	74.8	19.1
G3		196	174		203	184
ゴム使用は遊び人×	46.9	51.1	4.2	57.1	65.2	8.1
ゴム使用男: 相手大切	30.6	47.1	16.5	54.7	67.9	13.2
ゴム使用女: 健康管理	29.6	43.7	14.1	47.8	64.7	16.9
大切相手ゴム使用	33.2	40.8	7.6	45.3	58.2	12.9
平均	35.1	45.7	10.6	51.2	64.0	12.8
G4		98	97		83	84
ゴム使用は遊び人×	39.8	57.7	17.9	45.8	60.7	14.9
ゴム使用男: 相手大切	30.6	56.7	26.1	49.4	65.5	16.1
ゴム使用女: 健康管理	34.7	49.5	14.8	42.2	61.9	19.7
大切相手ゴム使用	35.7	45.4	9.7	41.0	58.3	17.3
平均	35.2	52.3	17.1	44.6	61.6	17.0
G5		105	105		99	91
ゴム使用は遊び人×	36.2	50.5	14.3	54.5	69.2	14.7
ゴム使用男: 相手大切	32.4	52.4	20	61.6	73.6	12
ゴム使用女: 健康管理	33.3	45.7	12.4	64.6	68.1	3.5
大切相手ゴム使用	28.6	46.7	18.1	62.6	69.2	6.6
平均	32.6	48.8	16.2	60.8	70.0	9.2
G6		158	148		150	146
ゴム使用は遊び人×	50.6	59.5	8.9	56	65.8	9.8
ゴム使用男: 相手大切	39.2	43.9	4.7	52	61.6	9.6
ゴム使用女: 健康管理	41.8	50	8.2	54.7	58.9	4.2
大切相手ゴム使用	38.0	39.9	1.9	56.7	60.3	3.6
平均	42.4	48.3	5.9	54.9	61.7	6.8

図6 コンドーム肯定率の変化(中学3年生)



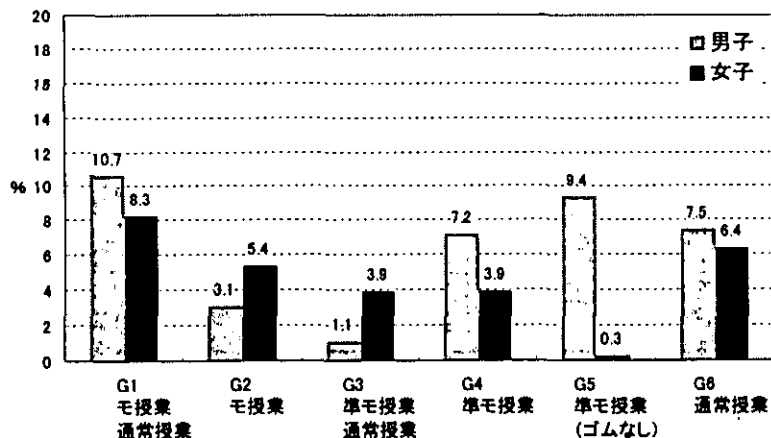
### (3) 中学生がセックスすることを認めている人の割合 (norm) (中学2年生)

「中学生がセックスをすることをどう思いますか」という設問で、「かまわないと思う」から「よくないと思う」までを4段階に分け中学生のセックスの容認の程度を尋ねた。「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」人の割合 (%) を介入前後で性別介入校群別に表 19 に示し、「かまわないと思う」+「どちらかと言えばかまわないと思う」を合計した割合の介入前後の差を図 7 に示した。モデル授業、通常授業にかかわらずすべての学校群で1 若干の容認率の上昇が観察されたが、統計学的有意水準の達しなかった。つまり、教育によって容認率の減少は見られなかった。

表19. 中学生のセックスを容認している割合の変化 (中学2年生)

	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
G1		176	174		173	158
かまわない	19.3	29.9	10.6	13.3	20.3	7
ややかまわない	10.8	10.9	0.1	13.3	14.6	1.3
合計	30.1	40.8	10.7	26.6	34.9	8.3
G2		287	271		268	266
かまわない	25.8	29.5	3.7	19	19.5	0.5
ややかまわな	10.8	10.2	-0.6	11.6	16.5	4.9
合計	36.6	39.7	3.1	30.6	36	5.4
G3		137	156		167	156
かまわない	27.7	25	-2.7	18	17.9	-0.1
ややかまわな	10.9	14.7	3.8	11.4	15.4	4
合計	38.6	39.7	1.1	29.4	33.3	3.9
G4		192	187		189	188
かまわない	18.8	26.2	7.4	14.8	17.6	2.8
ややかまわな	10.4	10.2	-0.2	9	10.1	1.1
合計	29.2	36.4	7.2	23.8	27.7	3.9
G5		144	133		140	139
かまわない	11.1	14.3	3.2	19.3	18.7	-0.6
ややかまわな	2.8	9	6.2	16.4	17.3	0.9
合計	13.9	23.3	9.4	35.7	36	0.3
G6		199	199		199	188
かまわない	16.1	23.1	7	16.6	20.7	4.1
ややかまわな	7.5	8	0.5	12.1	14.4	2.3
合計	23.6	31.1	7.5	28.7	35.1	6.4

図7 中学生のセックス容認度の変化(中学2年生)



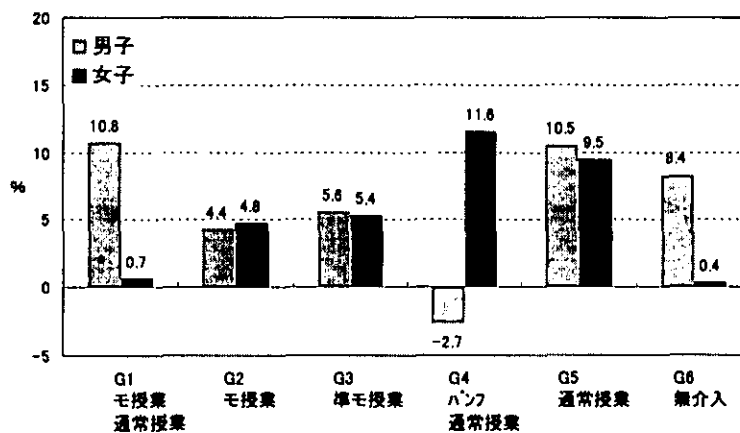
◆中学生がセックスすることを認めている人の割合 (norm) (中学3年生)

「中学生がセックスをすることをどう思いますか」という設問で、「かまわないと思う」から「よくないと思う」までの4段階に分け中学生のセックスの容認の程度を尋ねた。「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」人の割合(%)を介入前後で性別介入校群別に表20に示し、「かまわないと思う」+「どちらかと言えばかまわないと思う」を合計した割合の介入前後の差を図8に示した。モデル授業、通常授業にかかわらず1つの学校群の男子を除くすべての学校群ではほぼ10%未満の容認率の上昇が観察されたが、統計学的有意水準に達しなかった。つまり、教育によって容認率の減少は見られなかった。

表20. 中学生のセックスを認めている割合の変化 (中学3年生)

		男子			女子		
		事前	事後	差	事前	事後	差
G1	n	144	134		155	152	
	かまわない	25.0	35.1	10.1	14.8	17.1	2.3
	ややかまわない	8.3	9	0.7	17.4	15.8	-1.6
	合計	33.3	44.1	10.8	32.2	32.9	0.7
G2	n	125	126		113	112	
	かまわない	34.4	36.5	2.1	18.6	24.1	5.5
	ややかまわない	10.4	12.7	2.3	16.8	16.1	-0.7
	合計	44.8	49.2	4.4	35.4	40.2	4.8
G3	n	196	174		203	184	
	かまわない	19.9	28.7	8.8	28.6	34.2	5.6
	ややかまわない	15.3	12.1	-3.2	18.7	18.5	-0.2
	合計	35.2	40.8	5.6	47.3	52.7	5.4
G4	n	98	97		83	84	
	かまわない	25.5	30.9	5.4	24.1	25	0.9
	ややかまわない	13.3	5.2	-8.1	4.8	15.5	10.7
	合計	38.8	36.1	-2.7	28.9	40.5	11.6
G5	n	105	105		99	91	
	かまわない	24.8	30.5	5.7	32.3	37.4	5.1
	ややかまわない	7.6	12.4	4.8	12.1	16.5	4.4
	合計	32.4	42.9	10.5	44.4	53.9	9.5
G6	n	158	148		150	146	
	かまわない	29.7	36.5	6.8	21.3	27.4	6.1
	ややかまわない	14.6	16.2	1.6	16.7	11	-5.7
	合計	44.3	52.7	8.4	38	38.4	0.4

図8 中学生のセックス容認度の変化(中学3年生)



## 2-② C 市中中学生に対する予防介入の評価のまとめ

1. ポスター、パンフへの曝露は、高学年ほど高率で、パンフへの曝露は中学 2 年生以上で 50%を超えた。
2. パンフレットはよく保持されており、かつ友人や、親に見せるなど、波及効果も確認された。特に女子は、親によく見せており、本研究で開発したパンフレットが、親子会話を促進する効果を持つ可能性が示唆された。
3. HIV/STD 関連知識は、中学 2 年生、3 年生ともに、普通授業に比べ、モデル授業、もしくはその教材を一部利用した授業で数十%大幅に上昇した。
4. コンドームへの認知も、中学 2 年生、3 年生ともに、普通授業に比べ、モデル授業、もしくはその教材を一部利用した授業で大きく上昇した。
5. コンドームに対する肯定的態度（中学 3 年生のみ）は、普通授業に比べ、モデル授業、もしくはその教材を一部利用した授業で大きく上昇した。
6. 中学生のセックスを認める人の割合は、中学 2 年生でも 3 年生でも予防介入によって、有意な変化は生じなかった。

以上、本研究で行った予防介入は、中学生の知識や態度を変容する上で、大きな効果を持つことが確認された。性規範には、有意な変化は見られなかったが、筆者らは、性規範の測定スケールの感度が低い可能性を感じており、来年度は、性規範の変化をより敏感に捉えうるスケールの開発が必要と考える。



## 若者予防プロジェクト全体の考察

今年度、本研究グループでは、A県全域の高校生とA県内C市の全中学生を対象とした多段階エイズ予防介入研究を実施した。社会レベルの介入としては、地域保健所との協働による①保健所プロジェクト (community-based intervention) を実施し、②集団レベルとしてはA県高等学校およびC市中学校における②モデル授業プロジェクト(school-based intervention)を実施した。

**集団レベル予防介入：**A県全域の高校生に対しては、2年目の予防介入である。今年度の結果より、昨年と同様に、事前調査に基づき科学的にデザインされた予防教育によって、性行動を活発化することなく、大幅な知識の上昇、コンドームに対する肯定感の上昇などの予防意識の向上、予防行動としてのコンドーム購入、コンドーム使用率が促進する傾向が再確認された。さらに、昨年度の調査結果より、コンドームの実践教育を省いてもかなりの効果が上がる可能性が示唆されていたことから、今年度は、コンドーム教育を特には強調しない方法をとったが、昨年同様の教育効果が確認され、コンドームに対する抵抗感が極めて強い学校現場で、受け入れられやすい教育方法の開発につながった。しかしながら、今回の事前調査の結果より、性経験を持つ生徒のコンドーム使用トラブルが15%にも達していることから（参考：一般集団ではコンドーム使用トラブルは4~5%）、性経験を持つ高校生に対しては、学校を通さない別のチャネル（例えばインターネット等）からの情報提供の必要性が示された。次に、C市中学生に対する予防介入研究であるが、中学生に対するはじめての大規模調査でしかも市内全校が参加するというこれまでに例のない取り組みが実現した。この実現の背景には、地域の若者データを若者を取り巻く関係者が共有することにより、予防教育の必要性に対する認識が上昇したものと考えられる。中学生の事前調査からは、性経験率自体は低率ではあるが、セックスに対する容認度が高く、セックス予備軍が多数存在する可能性が示された。また、低学年ほどセックスの意味を知る時期が早くなり、その情報源としての「マンガ」の占める割合が増加していた。このように早い時期から性情報に曝露され、セックスの意味は知ってはいるものの、避妊、コンドーム、中絶など、予防の基本的な知識が不足しており、性情報のアンバランスの結果起こる、性知識のアンバランスの結果、性意識/行動の活発化・無防備化の現象が生じるものと考えられる。一方、中学生に対する予防介入研究では、高校生の場合と同様、知識の大幅な上昇、コンドームに対する肯定感の増加など顕著な効果が確認されたが、その効果は高校生の場合より顕著であった。これは言い換えると、予防教育の影響の強さを意味しており、方法を誤ると効果がないばかりか害になる恐れもあり、性意識に対する発達段階に大きな差のある中学生時代には特に慎重に準備された予防教育が必要であると考えられる。我々の予防教育はこの点を特に重要視し、綿密な事前事後の調査に基づいて予防教育を実施した。また、高校生も中学生も、アンケートの結果からは介入によりセックスの容認度の変化はほとんど確認されなかったが、授業実施後の感想文などから大半の生徒のポジティ

ブな意識の変容が確認されていることから、詳細な性意識の変化を捉えられるような感度の高い尺度の開発が必要であると考えられた。

**社会レベル予防介入**：県下全域（社会）に対する継続的な予防介入の影響を見るために、介入前の高校2年生の知識・意識・行動の経年変化を調べた。それによると、HIV/STD 関連知識全般では微増程度の変化であったが、教科書に載っていない地域固有の中絶の疫学知識の正解率だけが20%近く上昇するという結果が得られた。一般的な知識率の増加ではないため他からの介入の影響は考えにくく、我々の介入による効果であると思われる。さらに知識だけでなく、コンドーム使用意図、コンドーム使用交渉、コンドーム使用率（初交時、過去3ヶ月、一番最近のセックス時のいずれにおいても）のすべてにおいて、10%近く上昇していたが、高校生のセックスに対する容認度は減少していた。さらに、県内で最も介入密度の高い保健所では、HIV 検査件数と相談件数が大幅に増加していた。これらの結果より社会レベルの介入によっても、集団レベル同様、予防介入による高い予防介入効果が生じ得ることが確認された。

**その他の知見**：性経験率の3年間の年次推移を見ると、男子は全く変化がないのに対し、女子だけは上昇傾向を続け、男女格差が広がっていた。同じく女子だけに見られた現象として、最初の性情報の中における「マンガ」の占める割合が増加しており、前述の中学生同様、性意識形成における「マンガ」の影響を考慮し、メディアリテラシーを育てる教育が急務であると考えられた。女子ではこのように性意識・性行動の活発化は顕著であるが、一方で、具体的な予防教育に対するニーズも女子だけで顕著に上昇していることが示された。リスクのある状態にはいるものの、リスクの **personalization** を主目的とする我々の予防介入により、自分達にリスクがあるということに気付いた状態へと、（pre-contemplation の時期から次のステップへと）移行したと考えられ、さらなる予防介入の継続の必要性が示唆された。

**今後の方向性**：これからの予防の取り組みの方向性としては、**①保健所プロジェクトの継続**：社会レベルで高い効果が確認されていることから、さらにこれを継続し、性経験率、コンドーム使用率、地域固有知識の正解率、HIV 検査数、相談件数などの指標を用いてモニタリングし、最終的には中絶率の減少を捉えたいと考えている。また、エビデンスの得られた A 県での取り組みを予防モデルとして、全国に普及拡大していく予定である。**②教育関係者の壁**：学校によっては、予防の取り組みを精力的に開始している学校もあるが、これまでの取り組みの経験の中で、全般的に最も大きな障壁になったのが、教育界の壁である。対象に合わせたぴったりのサイズの予防教育を行なうために、むしろ行き過ぎの教育を行わないために、調査を行なうのであるが、調査結果を提示しても、簡単には現状理解にはいたらなかった。参加校が全校でないと“一部の学校の調査で偏っている”として受け入れられず、全数調査を実施しても、“生徒がふざけて書いたもので信じられない”という反応で、現状を冷静に受け止め、十分な予防教育が実施されるまでにはまだ時間が必要であると考えられた。**③保護者との連携**：今回、本文中では触れなかったが、今後、最

も期待できるセカンドオーディエンスは保護者であると考えている。今回の取り組みの環境作りに大きな役割を果たしたのが保護者の方々である。草の根的な活動により、各地で予防啓発の講演会を開催し、PTA の集まりに参加しない親にも 1 人でも多くの情報提供をとの意気込みから献身的な活動が展開された。また、学校教育の支援や要望提案はもちろんのこととして、C 市某高校の PTA のの方々により家庭でもできる予防メッセージの伝達方法のロールプレイが独自に開発された。このような熱心な保護者の方との連携を強化し、今後の予防教育の拡大を図っていこうと考えている。

以上、今後の取り組みの方向性の概要を述べた。これまでの結果より、十分な科学的データと大人の熱意によって子ども達は確実に変化するというエビデンスが得られている。巷に溢れる性情報を流しているのは大人であるから、それに対して、正しい性情報を提供するのは我々大人に課せられた緊急課題であると考えられる。

## 研究成果

著書、論文、学会発表に関しては、主任研究者の総括報告部分を参照のこと。予防啓発の普及の一環として講演活動を行なっているが、参考までに講演のリストを付記する。

### 一般講演（2003 年 4 月～2004 年 3 月）

1. 木原雅子・「若者の性行動の実態とこれからの予防のあり方について」富山県産婦人科医会主催「学術研修会」、平成 15 年 4 月 4 日
2. 木原雅子・「若者達の現状と性意識～予防を妨げるものは？」NHK 科学文化部主催「NHK スペシャル・21 世紀 日本の課題～エイズ 感染爆発をどう防ぐのか～」、平成 15 年 4 月 12 日、13 日
3. 木原雅子・「若者の性行動の現状とエイズ予防について」土佐塾中高等学校 父母と先生の会主催「エイズ講演会」、平成 15 年 4 月 26 日
4. 木原雅子・「若者の性意識・行動の実態と今後の予防教育のあり方について」島根県立大田高等学校主催「エイズ講演会」、平成 15 年 5 月 14 日
5. 木原雅子・「青少年の性行動の実態と性教育・エイズ教育に求められるもの」三重県高等学校保健部研究会主催「平成 15 年度第 1 回研修会」、平成 15 年 5 月 23 日
6. 木原雅子・「若者の性行動の実態とこれからの予防のありかたについて」Nagoya Lesbian & Gay Revolution 2003、平成 15 年 5 月 31 日
7. 木原雅子・「日本の若者の性行動の実態とその問題点」東京都健康局医療サービス部感染症対策課主催「平成 15 年度保健所職員等エイズ専門研修」、平成 15 年 6 月 4 日
8. 木原雅子・「地域における予防・啓発教育の実例とその評価」東京都健康局医療サービス部感染症対策課主催「平成 15 年度保健所職員等エイズ専門研修」、平成 15 年 6 月 4 日

9. 木原雅子・「若者の性行動の現状と性感染症予防の可能性」佐世保保健所主催「性感染症予防教育セミナー」、平成15年6月13日
10. 木原雅子・「青少年の性行動の実態と今後の予防教育のあり方について～うちの子は関係ないと思いますか?～」四街道市立千代田中学校主催「保護者と先生方に対する説明会」、平成15年6月17日
11. 木原雅子・「高校生の性意識・性行動の実態と今後の予防教育のありかたについて」京都市立西京高等学校主催「職員研修会」、平成15年6月20日
12. 木原雅子・「高校生の性意識・性行動の実態とこれからの予防教育のあり方について」大阪府立高等学校養護教諭研究会総会主催「大阪府立高等学校養護教諭研究会」、平成15年6月25日
13. 木原雅子・「エイズの過去・現在・未来“うちの子は関係ない”と思いますか?」鹿児島PTA連合会主催「性教育に関する講演会」、平成15年7月5日
14. 木原雅子・「日本の若者の性行動の実態と今後の予防教育のあり方について」兵庫県立尼崎高等学校主催「性教育に係る職員研修」、平成15年7月8日
15. 木原雅子・「“うちの子は関係ない”と思いますか?～中絶・性病・エイズについて～」長崎県立佐世保東翔高等学校PTA主催「長崎県立佐世保東翔高等学校PTA研修会」、平成15年7月16日
16. 木原雅子・「若者へのHIV感染に対する効果的な予防啓発」静岡県健康福祉部疾病対策室主催「第12回静岡県HIV感染症カンファレンス」、平成15年7月19日
17. 木原雅子・「若者の性の現状とこれからのエイズ予防～今、一人一人にできること～」長崎大学主催「平成15年度長崎大学教養特別講義」、平成15年7月23日
18. 木原雅子・「青少年の性意識・行動の実態と今後の性感染症予防教育のあり方について」文部科学省主催「平成15年度全国健康教育研究協議会」、平成15年7月24日
19. 木原雅子・「青少年の性行動の実態と今後の予防教育に求められるもの」京都市立山ノ内小学校主催「京都市立山ノ内小学校教職員研修」、平成15年7月29日
20. 木原雅子・「青少年の性意識・行動の実態と今後のエイズ予防教育のあり方について」愛知県教育委員会主催「平成15年度健康教育専門講座「性(エイズ)教育」、平成15年8月1日
21. 木原雅子・「青少年の性意識の実態と今後の学校教育に求められるもの」香川県教育委員会・学校保健会主催「平成15年度香川県学校保健研修会」、平成15年8月5日
22. 木原雅子・「Sexual Behavior of Japanese Youth & Science-based Prevention education」Zhejiang Provincial Center 主催「For Disease Prevention and Control in China」、平成15年8月15日
23. 木原雅子・「青少年の性意識・行動の現状とこれからの予防教育のあり方について」

- 佐世保市教育委員会主催「性教育推進研修会」、平成15年8月19日、20日
24. 木原雅子・「エイズの予防介入学」長崎大学熱帯医学研究所主催「平成15年度熱帯医学研修課程」、平成15年8月22日
25. 木原雅子・「青少年の性行動の実態と今後のエイズ予防教育に求められるもの」京都市立北野中学校主催「京都市立北野中学校夏季校内研修会」、平成15年8月28日
26. 木原雅子・「若者へ性行動の現状と今後のエイズ予防対策の在り方について」大阪府健康福祉部主催「平成15年度エイズ対策研修会」、平成15年9月2日
27. 木原雅子・「全国中学生生活意識調査について」佐世保市教育委員会主催「佐世保市中学校 学校長会」、平成15年9月3日
28. 木原雅子・「若者の性の現状とエイズ～私たちは大丈夫といますか??～」京都産業大学主催「平成15年度大学コンソーシアム京都」、平成15年9月12日
29. 木原雅子「日本の若者の性行動の現状と今後のSTD/HIV予防のあり方について」三共株式会社主催「清水会9月例会」、平成15年9月17日
30. 木原雅子・「青少年の性意識の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について」福山市教育委員会主催「エイズ教育に対する講演会」、平成15年9月19日
31. 木原雅子・「青少年の性意識・行動の実態と今後のエイズ予防教育のあり方について」愛知県保険医協会主催「母性問題部講演会」、平成15年9月20日
32. 木原雅子・「エイズ・性病・妊娠～うちの子は関係ないと思いますか??～」成蹊中学・高校PTA施設厚生部主催「エイズについての講演会」、平成15年9月28日
33. 木原雅子・「中高生の性意識の現状とこれからの予防教育のあり方について～科学的予防の導入～」京都府私立中学高等学校連合会主催「平成15年度第2回京都府私立中学高等学校教育研究会」、平成15年10月19日
34. 木原雅子・「講義Ⅲ『HIV感染症の現状③ 日本の青少年の性行動と実効のある予防対策』～科学的予防の介入～」財エイズ予防財団主催「平成15年度 エイズ予防・啓発教育研修会」、平成15年10月22日
35. 木原雅子・「HIV Prevention Education among Japanese Youth “Introduction of Social marketing”」財エイズ予防財団主催「平成15年度第10回アジア地域エイズ専門家研修」、平成15年10月24日
36. 木原雅子・「若者のせいの現状とこれからの性感染症予防～大学でできることは何か?～」長崎大学主催「平成15年度長崎大学大学生生活研究会」、平成15年12月9日
37. 木原雅子・「青少年の性意識の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入（実践例）～」石垣市教育委員会主催「石垣市エイズ教育（性教育）推進地域研究発表会」、平成15年12月12日
38. 木原雅子・「青少年の性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入（実践例）～」茨木市北中学校、北陵中学校青少年健全育成運動

- 協議会主催「茨木北中・茨木北陵中合同青少年健全育成大会」、平成15年12月20日
39. 木原雅子・「うちの子は関係ないと思いますか?～中絶・性病・エイズについて～」長崎市主催「平成15年度長崎市エイズ予防研修会」、平成16年1月10日
40. 木原雅子・「これからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入(実践例)～」奈良県学校保健会主催「平成15年度保健主事・養護教諭合同研修会」、平成16年1月15日
41. 木原雅子・「これからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入(実践例)～」徳島県教育委員会体育保健課主催「平成15年度学校保健・安全研究協議会ならびにエイズ教育研修会」、平成16年1月20日
42. 木原雅子・「わが国の中高生の性行動の実態について」日本産婦人科学会富山地方部会主催「平成15年度市民公開講座」、平成16年1月24日
43. 木原雅子・「青少年の性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入(実践例)～」大阪府医師会主催「平成15年度『HIV感染症に関する研修会』」、平成16年1月27日
44. 木原雅子・「これからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入(実践例)」和歌山県伊都郡かつらぎ町教育委員会主催「平成15年度 エイズ教育(性教育)推進地域事業に係る講演会」、平成16年1月31日
45. 木原雅子・「わが国の中高生の性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～科学的予防の導入(実践例)～」松江市医師会・学校保健会主催「松江市医師会・学校保健会合同研修会」、平成16年2月3日
46. 木原雅子・「中高生の性意識の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～“うちの子は大丈夫だと思いますか?”～」京都市立常盤野小学校PTA主催「平成15年度エイズ予防のための講演会」、平成16年2月12日
47. 木原雅子・「全国高校生の生活実態調査～携帯電話の使用状況～」社団法人全国PTA連合会主催「第4回健全育成委員会」、平成16年2月13日
48. 木原雅子・「千代田中学校におけるエイズ教育効果評価～“子どもたちはどう変わったか?”～」千葉県四街道市立千代田中学校主催「千代田中学校エイズ教育」、平成16年2月19日
49. 木原雅子・「中高生の性意識・性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～“科学的予防の導入”～」京都市教育委員会主催「平成15年度エイズ教育(性教育)推進事業2年次報告会」、平成16年2月24日
50. 木原雅子・「中高生の性意識・性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～“科学的予防の導入”～」京都学園中学高等学校主催「中学生への性教育のあり方」、平成16年2月25日
51. 木原雅子・「中高生の性意識・性行動の現状とこれからの性感染症予防教育の必要

性について～“科学的予防の導入”～」華頂女子中学高等学校主催「平成15年度教職員人権研修会」、平成16年3月10日

52. 木原雅子・「中高生の性意識の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～“うちの子は大丈夫だと思いますか？”～」東京学校保健研究会主催「平成15年度エイズ予防のための講演会」、平成16年3月13日
53. 木原雅子・「中高生の性意識の現状と性感染症予防教育について～佐世保市の調査結果より～」佐世保市日宇地区4校、佐世保市PTA連合会南部ブロック母親部主催「若者の性意識と感染症～特に佐世保市の現状を踏まえて～」、平成16年3月16日
54. 木原雅子・「中高生の性意識の現状とこれからの予防教育について～佐世保市の調査結果より～」佐世保市保健福祉部子育て家庭課主催「中高生の性意識と行動についての講演会」、平成16年3月19日
55. 木原雅子・「中高生の性意識・性行動の現状とこれからのエイズ予防教育のあり方について～“科学的予防の導入”～」愛知血液疾患研究財団主催「第14回学術講演会（血液疾患に関する講演会）」、平成16年3月25日
56. 木原雅子・「中高生の性意識の現状と性感染症予防教育について～佐世保市の調査結果より～」佐世保市主催「思春期の性教育推進委員会」、平成16年3月26日



平成15年度

# 長崎県高校生 エイズ予防基礎調査



このアンケート調査は、厚生労働省エイズ予防研究班（HIV社会疫学研究班）による調査です。

厚生労働省の報告によると、我が国でも、最近、若い人たちの間に、エイズや一般の性感染症（性病）の流行が急速に広がっており、また、10代の妊娠中絶数も増加傾向を示しています。このような状況のなか、高校生のみなさんの生活や意識、知識を正確にとらえることが、若い人たちに適したエイズ／性感染症予防対策を立てる上で大変重要となってきています。

みなさんご自身のことについて、立ち入ったことを質問いたしますが、アンケートの結果はすべて、コンピューターで処理され、「○○○という意見が○%であった」「○○○という行動をとっている人が○%いた」という形でまとめられます。

このアンケートには、皆さんのお名前を書く必要はありません。また、どうしても答えたくない部分は、何も書かなくても結構です。答えられる範囲で答えてください。

学校の先生方がこのアンケート用紙の内容を見ることはありませんので、できるだけ正直に答えてください。

ご協力よろしくお願いいたします。

調査代表者

木原雅子

厚生労働省HIV社会疫学研究班若者予防グループ代表

- アンケート用紙はお渡したシールで封をして、お名前を書かずに提出してください。アンケートの内容が学校の人の目に触れることはありません。
- この調査について不審な点やお尋ねになりたいことなどがございましたら、裏面に記載のお問い合わせ先までご連絡下さい。





● 問い合わせ先

● 京都大学大学院 医学研究科 社会疫学分野 (木原雅子助教授)

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町 電話/075-753-4350

● 文部科学省スポーツ青年局・青少年局学校健康教育課 (大竹輝臣専門官)

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2 電話/03-5253-4111 (内線 2070)

## あなたご自身のことをおききします

問1) あなたの性別をお答えください。(どちらかに○印)

1.  男                      2.  女

問2) あなたの年齢と学年をお答えください。

歳                       年生

## 家族についておききします

問3) あなたの現在の同居家族をお答えください。(あてはまる人すべてに○印)

1.  父                      6.  妹  
2.  母                      7.  祖父  
3.  兄                      8.  祖母  
4.  姉                      9.  その他 (                      )  
5.  弟

問4) あなたは家族と過去3ヶ月間にどのくらい話(日常会話)をしましたか。

(ひとつだけ○印)

1.  まったく話をしなかった  
2.  ほとんど話をしなかった  
3.  たまに話をした  
4.  よく話をした

「よく話をした」と答えた方にのみお聞きします。

問4-1) よく話をした相手はだれですか。(あてはまる人すべてに○印)

1.  父  
2.  母  
3.  兄弟姉妹  
4.  祖父母  
5.  その他 (                      )

問5) あなたは家族と男女交際について話をしたことがありますか。(どちらかに○印)

1.  ある                      2.  ない

## あなたの日常会話についておききします

問6) あなたは、近所の大人とふだんどのくらい話をしますか。(ひとつだけ○印)

1.  まったく話をしない
2.  挨拶あいさつをするだけ
3.  たまに話をする
4.  よく話をする

問6-1) よく話をする近所の人は誰ですか。  
( )

問7) あなたは、学校の先生とふだん雑談ざつだんしますか。(ひとつだけ○印)

[ただし養護ようごの先生(保健室の先生)は除きます]

1.  まったく話をしない
2.  挨拶あいさつをするだけ
3.  たまに話をする
4.  よく話をする

問7-1) よく話をする先生は誰ですか。(例:担任の先生、数学の先生など)  
( )

## 学校生活についておききします

問8) あなたは、過去3ヶ月間にどのくらい保健室に行きましたか。(ひとつだけ○印)

1.  まったく行かなかった
2.  3ヶ月に1回くらい
3.  月1回
4.  月2-3回くらい
5.  週1回
6.  週2-3回くらい
7.  週4回以上

問9) 保健室にいった時、養護<sup>ようご</sup>の先生(保健室の先生)とは話をしましたか。(ひとつだけ○印)

1.  よく話をした
2.  わりと話をした
3.  たまに話をした
4.  めったに話さなかった
5.  保健室には行かなかった

### 日常生活についておききします

問10) タバコをすったことがありますか。(どれか1つに○印をつけ、 に数字を書いてください)

1.  すったことがない
2.  すったことがあるが、今はすわない
3.  たまにすう
4.  よくすう(1日  本)

問11) お酒をのんだことがありますか。(どれか1つに○印をつけ、 に数字を書いてください)

1.  のんだことがない
2.  のんだことがあるが、今はのまない
3.  たまにのむ
4.  よくのむ(週  回)

問12) あなたは、次にあげることがらの経験がありますか。(あてはまるすべてに○印)

1.  出会い系サイト
2.  テレクラ
3.  援助交際
4.  大麻(たいま)・ハッシ・ハツパ
5.  スピード・S
6.  シンナー
7.  どれも経験がない